これまでの議論の骨子として

・人生100年時代には、移動は無くならない。

・むしろ、より多様な移動欲求が発生する。

・様々な移動ニーズに対し、カスタマイズされた（パーソナルもしくはマストラ）モビリティが誕生するはず。

　例えば

　→移動時間を欲求のままに使えるモビリティ（睡眠・仕事・コミュニケーション…）

　→パーソナルモビリティも公共空間を使っての移動も選び放題（サービス含め）

　→体のコンディションに関係なく移動できる（あるいは、欲しいものやサービスがやってくる：街じゅう全自動倉庫化）

　→移動する人も、周りにいる人も安全

・但し、なんでもありありの世界が本当にいいのかの検証も必要（安全快適スピーディによって「失われるもの」はないのか？）

・何らかの新たなルール（年齢制限ありのモビリティなど）があってもいい？

山本的には、ざっくりとこんなことが論点に上がっていると理解しています。

中間報告会では、こんな論点を基に報告させていただく予定です。

中間公表会後は次のステージに移り、引き続き皆様と３回ほど議論することになっています。

上記議論をもう少し具体的に煮詰め、人生100年時代の移動・モビリティについてのイメージを発出する必要ありとのこと。

ということで、23日の議論で、具体的に取り上げるテーマとして、

「人生100年時代の山手線」

を考えてみることにしました。

東京を代表するマストラである山手線は、今後どう変わっていくべきなのか。

駅はどうなってしまうのか。

山手線と周辺はどうつながるのか。

人生100年時代に山手線を使う人はどんな人なのか。

山手線の上・中・下でどのような営みが行われるのか。

そのために必要な「箱」は？（「箱」なのか？）

いろいろお話させてください。

なお、参加メンバーを見る限り、絵を描くのが不得手な方々がほとんどのようです（失礼！）。

ということで室町先生にお願いし、今後は室町研の学生さんのご協力をいただく予定です（室町先生、よろしくお願いします）。

また、他のチーム（チーム６：「学び」チーム）からの意見交換のご要望が来ているとのこと。

これも実施される見込みとのことですので、奮ってご参加ください。

以上、簡単ながらご報告まで。